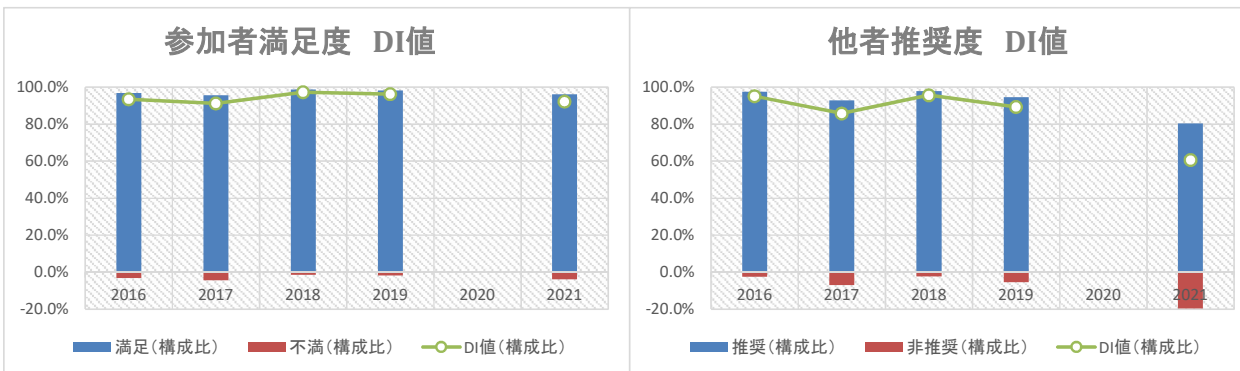


インターンシップ事業

<事業概要>

就職活動としてのインターンシップではなく、大学における学びの一環として位置づけ、実体験と教育研究の融合による「学習意欲の喚起」、「高い職業意識の育成」、「自主性・独創性のある人材育成」を目的とした教育プログラム(コープ教育)として、1998年度より全国に先駆けて実施しています。

実務経験型(10日以上の実習)の「ビジネス・パブリックコース」と、課題解決型(約5か月間の実習)の「長期プロジェクトコース」の2つのコースを展開しています。各大学の教員がコーディネーターとして関わっています。



<参加者の声>

- 参加前に比べて就職に対する意識が大きく変わったため。
- 就職直結型のインターンシップとは違い、大学生活に活かせる学びがあったため。
- 実習を通して社会勉強ができただけでなく、人脈や視野も広げることができたためです。また、挑戦してみて期待以上に充実感のある実習を行うことができたことがとても良かったです。
- 幅広い挑戦ができ、多くの方から学ぶ機会を得られたことは学生生活でも限られており、自分自身を振り返るきっかけとなったからです。
- 最後の発表で講師や企業からの講評が個別に欲しかった。暖かい言葉ばかり頂けたがマイナスな部分も知りたかった。
- 実習先の実体をコンソーシアム側は把握し切れていないと感じます。
- インターン自体は良かったが、事前学習・事後学習は時間の負担が大きかったわりには学びが薄かった。

<参加者の声を受けて改善を図った点>

新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での活動が制限される状況においても実施できるプログラムとするため、オンラインを積極的に活用するプログラムとした。

具体的には、2021年度インターンシップ・プログラムへの出願をWeb出願とし、面接や事前・事後講義はオンラインにて行うこととした。また、実習においても一部オンラインを活用できるよう、企業・団体間による実習内容の共有・研究の場を設けた。

【総括】

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、全てのプログラムを中止したが、2021年度はビジネスコース/パブリックコースについてはオンライン、長期プロジェクトコースについては、対面とオンラインを併用して講義を実施した。一部の受入先ではオンライン実習に対応いただくなど、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が適用される状況であっても、実施可能なプログラムとして、一定、型を形成することができた。

他方で企業・団体による採用を目的としたインターンシップが増加し、その影響からキャリア教育を目的とする本プログラムへの参加学生数や受入企業・団体の登録件数が年々減少傾向にあることは課題である。本プログラムが、学生が京都の企業・団体への関心を高め、より自己の職業観を深める機会となるとともに、京都地域全体の人材育成と社会活性化を促進する仕組みとなるよう取り組んでいく。

参加者満足度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
満足(名)	354	305	219	210	未実施	174
不満(名)	12	14	3	4		7
満足(構成比)	96.7%	95.6%	98.6%	98.1%		96.1%
不満(構成比)	-3.3%	-4.4%	-1.4%	-1.9%		-3.9%
DI値(構成比)	93.4%	91.2%	97.3%	96.3%	92.3%	92.3%
参加者数(名)	398	346	257	250		253

他者推奨度

	2016	2017	2018	2019	2020	2021
推奨(名)	321	236	181	178	未実施	139
非推奨(名)	8	18	4	10		34
推奨(構成比)	97.6%	92.9%	97.8%	94.7%		80.3%
非推奨(構成比)	-2.4%	-7.1%	-2.2%	-5.3%		-19.7%
DI値(構成比)	95.1%	85.8%	95.7%	89.4%	60.7%	60.7%
参加者数(名)	398	346	257	250		253

※DI (Diffusion Index)値とは

「良い/悪い」「上昇/下落」といった定性的な指標を数値化して、単一の値に集約する加工統計手法のこと。または、この方法によって得られた指数をいう。DIは、時系列データであれば値の増加(プラス)/減少(マイナス)、サーベイデータ(アンケートなど)であれば回答を良い/悪いなどの属性に分類し、その属性の個数を集計して全系列数に占める割合などから算出する。

<http://www.itmedia.co.jp/im/articles/0707/09/news108.html>